

平成29年度

第2回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録
(平成29年9月 第二回)

- 1 日 付 平成29年9月9日 (土)
- 2 場 所 上今泉コミュニティセンター 1階レク室
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 平井 照江 教育委員 岡部 二九雄
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎
教育総務課長 吉川 浩 教育総務課総務係長 阿部 優文
教育総務課主査 志村 政憲 教育総務課主事 神福 壽子
- 5 開会時刻 午前10時30分
- 6 協議事項
(1) 学校施設再整備計画について
(2) 学用品等の経費負担のあり方について
(3) 児童・生徒の登下校の安全について
(4) 上星小学校児童会からの学校に関する要望・提案について
- 7 閉会時刻 午前11時30分

○**教育部長** 皆様、おはようございます。定刻になりましたので、ただいまから平成29年度第2回海老名市総合教育会議を開会いたします。私は司会を務めます教育部の岡田と申します。よろしくお願いいたします。

進行につきましては、本日お配りしております次第により進めさせていただきます。

また、本日は報道機関の方が入っております、撮影等をさせていただく場合がございます。何とぞご理解願います。

では、まず初めに、市長と教育長からご挨拶を申し上げます。

内野市長、よろしくお願いいたします。

○**内野市長** おはようございます。第1回目の会議は過去最高の86名の方々が参加をさせていただきましたけれども、今回はこの上今泉のコミセンで行います。4番目に上星小学校の児童会から学校の要望について直訴をいただくようになっていきます。この部分について時間をとりたいと思いますので、11時20分ごろまでに①から③のことについて議論をしていただきたいと思っています。私ども総合教育会議は形式的な会議ではありませんので、ざくばらんな話をオープンにさせていただいて、これを教育環境とか学校教育の中で生かしていきたいと思っています。

私は常に言っていますけれども、教育は政治的中立でありますから、私自身はあまり教育内容については議論はしておりません。しかしながら、私も昔は保護者でありましたから、そういった部分と今、孫が中学生でいますから、いろいろな話を聞いております。そういった関係の中でもいろいろな現場での話とか、あるいは現状の話をさせていただきながら、よりよいものにしていきたいと思っていますので、教育委員の皆さん、よろしくお願いいたします。

本日は傍聴の方がいらっしゃいますけれども、できるだけ今回、児童会からのお話がありますから、10分程度はつくっていききたいと思っていますので、ご協力をお願い申し上げます。しかしながら、傍聴の皆さん、ここは要望の場所ではありません。意見とか提案がありましたら、そういった部分でご意見をよろしくお願いいたしますと思っていますので、よろしくお願いいたします。

○**教育部長** 続きまして、教育長、よろしくお願いいたします。

○**伊藤教育長** おはようございます。多くの方に来ていただいて本当にうれしく思っています。毎回毎回言うのですが、私自身は教育の形はみんなが主体的にかかわってほしいなと思っています。我々行政、またもちろん市長さんを先頭にやることはやるのです

けれども、それ以上にやはり保護者の方とか市民の方とか、本日は子どもたちも来ますけれども、みんなが教育を主体的に考えて、このほうがいいのではないかという意見を出していただきたいと私は思っています。そういう中で議論して進むのが教育の本来の姿だと私自身は思っています。

ですので、今さまざまな部活動、それから保護者の経済的負担等の委員会をPTAと一緒に立ち上げて話し合いを進めています。そういう中でも、私が決めてすべてを提案するのは簡単なのですけれども、やはりいろいろな意見を聞く中で、みんなで作ったとか、みんなで考えたらこうということが必要かなど。教育委員会が上から落としてきたものではなくて、みんなで議論して決めたものだなということがまず1つの大前提であって、常に学校にも人がいっぱい来てほしいし、子どもたちのためにみんながかかわってほしいと思っていますので、そういう意味でこれはとても有意義な会議だと思っています。

市長さんの発案で子どもたちの意見も聞こうよということで、今回初めてです。あと残り2回も子どもたちが登場します。では、本日の子どもたちは何を勉強するかというと、これは教育のプログラムで仕組まれたものなんです。実を言うと、児童会、生徒会というのは教育の中で、子どもたちが社会に出たときに自分たちが自治的な活動ができる仕組みを学んでいるのです。だから、本日の子どもたちはある意味で各クラスから選ばれた市議会議員みたいなものです。その子たちが集まって、自分たちの考えを実現させるためにどういう手法があるかということをお勉強するために来ていますので、そんな子どもたちを市長さんとか我々教育委員も応援して、次の社会をつくる子どもたちがこういう仕組みで社会がつくられると。学校という小さな仕組みですけれども、学級会でみんなの意見、地域の意見を吸い上げて、代表として代表委員会へ出て、そこで話し合う。中学校ですと生徒会の会長さんは今でも選挙で選びます。そのときに選挙で選ばれた市長さんに当たる方がそこにおいて、みんなが集まって話し合いをして物事を決める。子どもたちの中にも、自分たちの環境とかなんかも自分たちで決定することができて、それを実現することが、よりよく生活を変えろという体験をプログラムして教育的にやっているのが生徒会とか児童会の活動ですので、その委員さんが本日は登場しますので、すごく緊張していると聞いているのですけれども、一緒に市長さん、教育委員さんと話し合いができればいいかなと思っています。

それでは、よろしく願いいたします。

○教育部長 ありがとうございます。総合教育会議は市長と教育委員会が教育に関する

重要な施策につきまして協議をする場となっております。その協議の結果、合意が図られた事項については、お互いが尊重しましょうということになっております。

今回は2回目です。それから本年度は3回目、4回目と南部地区、中部地区で実施する予定となっております。

本日の会議ですけれども、先ほど市長からもありましたとおり、保護者の方を中心とする傍聴の方々にご意見を求める場合もございます。その際には、時間も限られておりますので、簡潔にお願いします。

それから、最後のレジュメの4つ目の初の取り組みの児童会からの提案でございますけれども、ここでは少し協議の準備が入りますので、ご了解いただきたいと思います。

それでは、早速協議に入ります。ここからの進行は市長、お願いいたします。

○内野市長 それでは協議事項(1)学校施設再整備計画についてを議題とします。

初めに、事務局から説明をお願いいたします。

○教育部次長 それでは、学校施設再整備計画につきましてご説明をさせていただきます。教育部の金指でございます。よろしくをお願いいたします。

まず計画の位置づけでございます。海老名市では高度経済成長期に建設された公共施設の老朽化の進行により、将来、これらの維持や更新にかかる経費が大きな負担になるだろうということが予測されることから、この表で言いますと左側、海老名市公共施設再編計画を昨年度策定いたしました。この計画は長期的かつ全庁的な視点に立った公共施設の再編、あるいは適正化を進めるための基本的な考え方、あるいは取り組みの方向性を示したものでございます。

今度は右側です。茶色ですけれども、本日ご説明をさせていただきます学校施設再整備計画は、この分野別計画というものでございまして、老朽化の進む校舎の長寿命化、あるいは少子化、将来の学校の施設のあり方に対応した施設の再編など具体的な計画を定めてまいりたいというものでございます。

計画策定に当たりましては、教育委員会でご議論いただきまして、方向性を決めていただいております。一番上に書いてありますが、「持続可能」な「夢」のある計画というものでございます。こちらを達成するためにそれぞれ短期計画、中長期計画ということでおおむね40年先まで見据えた計画をつくっていかうというものでございます。

ざっくりお話ししますと、短期計画については、具体的な整備内容を計画としてあらわ

して長寿命化を図っていく。また、中長期、超長期については、子どもたちの減少であるとか他の公共施設との複合化、学校が地域のコミュニティの核となるような、そういう夢のある計画をつくっていかうというものでございます。

また、この計画の策定に当たりましては、こちらに書いてあります2つの組織でご議論をいただいています。上が大学教授であるとか学識経験者を構成メンバーとする外部検討委員会です。これまで3回ご議論をいただいているところでございます。また、庁内組織として公共施設を所管する部長に集まっていただきまして、横の連携であるとか、他の公共施設との連携をご議論いただいているところでございます。

具体的な作業でございますけれども、まず先ほど老朽化が進んでいるというお話をしましたが、本年の3月から4月にかけて合計77棟の学校施設を点検してございます。この調査では建物の基本情報を確認する。また、構造躯体の健全性、建物本体自体がまだもつのかもたないかということです。それから劣化度調査ということで、外壁であったり内装であったり電気設備であったり、そういうものを4項目の評価基準に分けて確認をいたしました。その結果、この77棟すべてが長寿命化可能である、躯体については問題がないですよということがわかりました。一方、劣化状況については、施設によって劣化度が激しいものもあるということで、速やかに対応する必要がある棟もあるということがわかりました。今後はこの劣化度に合わせて優先順位を決めて整備をしていく必要があると考えてございます。

また少子化というものは、お話が出ていますけれども、海老名も同様のことが言えます。このグラフで言いますと、一番高く上がっているところが昭和60年でございます。このときが海老名市の児童生徒のピークでございまして、当時1万6,000人の児童生徒がいたということです。今ずっと右に来て、赤いところですね。ちょうど今現在ですけれども、それが現在1万1,000人ということで、ピークから5,000人程度子どもが減少している。ピーク時の68%です。さらに40年後の子どもたちの数はどのぐらいなのかというのを推計したのが、さらに右側です。ここに書いてありますピーク時の53%、人数でいくとおおむね8,500人ぐらいに児童生徒の数は減ってくるということが推計をされてございます。

それをこの地図で見ますと、学校ごとに整理をしてございます。ちょっと見づらいのですが、今、開発が進む海老名駅周辺にある今泉小だとか海老名小については今後も増加傾向にあるだろう。一方、杉久保小、大谷小、有馬小などについては将来、6学年で10クラスぐらいになるのではないかと推計をされてございます。

す。クラスとしては、ここに書いてあるように現在269学級が213学級ぐらいになってくる。

では、中学校についてはどうなのだろうかということでの推計でございます。やはり中学校についても減少傾向が続くということで、こちらに書いてある114学級が90学級になる見込みでございます。

以上、劣化状況、あるいは児童生徒数の推計について調査を進めてきました。

一方、先ほどお話しさせていただきました夢のある計画ということがありましたけれども、将来の学校施設の姿についても検討委員会の中ではご議論いただいています。その中では現在、海老名市が進めております小中一貫教育、それからコミュニティスクール、また共生社会の実現に向けて、できるだけすべての子どもが同じ場で学び、ともに育つという考え方のインクルーシブ教育、またさまざまなコミュニティセンターだとか公共施設がございますけれども、それらの機能を学校に集約ができないかということで、多機能化・複合化ということもご議論をいただいているところでございます。さらに、計画策定に当たっては子どもたちの声を聞きたいということで、小中学校の子どもたちにアンケート調査をしてそれを確認しているところでございます。

これらの調査結果、あるいはアンケート調査結果などを集約しておりまして、現段階で学校施設の整備方針の視点を整理いたしました。先ほど言いましたように子どもたちの数は増えるところと減るところがございます。それを考えると、1として、増加校はピーク時を見据えた児童生徒数への対応が必要になる。また、減少校は長期的に複数校で面的に対応する必要があるのではないだろうか。

また、2、おらが学校と書いてありますけれども、今地域のコミュニティの拠点として周辺公共施設の複合化、多機能化も考える必要があるだろう。また、地域連携による開放施設の新しい運営方法についても考える必要があるだろう。

また、先ほどの夢のある計画の中でも話しましたが、小中一貫校であるとか、新たな整備レベル、適正規模の検討もあわせて行う必要があるだろう。

最後に、財政と連動した長寿命化の計画。先ほどの持続可能なということですが、これは財政と切ることができませんので、そこについて盛り込む必要があるだろうと考えております。

右に書いてあるのが、これは今まさに議論の最中ですが、こんなものが検討されています。1つは、校舎を他のエリアに建設するなど小中学校の面的な再編も考えなければならない。また、増加校については増築をするにしても、先ほどおらが学校という言葉

がありましたけれども、地域と一体となるような、地域開放型の増築を考える必要があるだろう。また、さらなる小中一貫教育を進めるべく施設一体型の小中一貫教育も考える必要があるだろう。さらには、コミュニティセンターだとかそういった公共施設との複合化も考える必要があるだろう。また、学校施設周辺には他の公共施設も隣接しているケースがかなり多いです。その場合に、近隣公共施設との連携というものも視野に入れる必要があるよねと。それから義務教育学校への移行。それから重点整備として、LED化であるとか、施設の木質化であるとかバリアフリー化、こういった観点からの整備についても対応策として十分な検討が必要だろう。最後に、児童生徒数の推移に合わせた学区の再編、それから学校の子どもたちの数が減れば建物がこれはもう要らないというのが出てくる可能性があるのですけれども、減築・再編などが可能性としてはあるのかなということが出ています。今後はさらなる対応策の検討、またコスト計算、あるいは整備の優先順位などを議論の上、計画の中で定めていきたいと考えてございます。

私の説明は以上です。

○内野市長 事務局から説明がありました。各委員さんから何かこの資料に基づいた、こういうところはどうなのかという質問、あるいは意見がありましたらよろしくお願いたします。

○海野委員 よろしくお願いたします。今説明を伺って、本当に夢のある施設の整備方針が決まっていると思うんですけれども、ちょっと気になるのは、現在の子どもたちが今、本当に夢のあるというか、快適な学校生活を送れているかどうかということが気になります。それで、長寿命化改修計画の内容についてももう少し詳しくお聞きしたいのですが。

○教育部次長 長寿命化改修計画ということでございますけれども、先ほど言いましたように、子どもの数としては将来的には減少するだろう。ただ、向こう10年から20年にかけてはそこまで減らないと考えていますので、先ほど夢のある計画とありましたが、現在、学校に通っている子どもたちの過ごしやすい環境というものも考慮した計画が必要だろう。さらには、今ある施設を大規模改修して長くもたせるということも必要だろう。その2つを考えているところでございます。

○海野委員 ありがとうございます。今すべて環境が変わってきていますよね。豪雨があったり、災害の面においても、グラウンド整備とかそういうものも実際今すぐに改修しなければならない面がたくさんあると思いますので、ぜひ改修のほうもよろしくお願したいと思います。

○岡部委員 何点か。この検討委員会を3回実施したということなのですが、今後のスケジュールというのですか、そういうものを1つ教えていただきたいと思います。それから、短期計画、中長期・超長期計画とあるのですが、中長期以降はどんなふうになるのかなど。社会の変化もあるでしょうし、想定が難しいのですが、海老名の学校は100年を超えた学校もあります。そういう中で学校が地域で果たしてきた役割というものの、地域の方が学校に持っている愛着というのですか、そういうものも上手にこの中に取り込んでほしいなと思います。夢とともに、地域の核として果たしてきた役割を尊重したものにしていければなと思います。

あとは整備の視点ですか、このような切り口で考えていくということで、これはそうだろうなと思っております。

○教育部次長 当面のスケジュールということでお答えさせていただきたいと思いますが、今年度は2回ほど検討委員会を外部委員については計画しています。また庁内検討委員会については随時実施していきたいと考えてございます。

○松樹委員 よろしく申し上げます。細かいことは策定検討委員会の答申が出たときにまた議論したいと思っておりますけれども、私は学校というのは地域の中心ではないかと思うのです。それはいろいろな思いの詰まった学校という形ですので、ここにもありますように多機能化とか複合施設とか、そういう方向性に向かっていくのではないかと思います。私も上星小学校出身ですが、校舎を見ると、かなり古くなったなという感じはするのですが、これから改修の観点の中で、地域地域の特性に合った改修の方法で、また40年後の計画というのはまさに夢のある計画で、地域地域の特性に合った学校づくりがあつていいのではないかと私は思います。今は学校の統廃合などというのが叫ばれている時代ですが、私は、学校は減らすべきではないという考えなのです。地域に学校は必ずあるべきだという感覚ですので、効率から考えればスクールバスを走らせてとなるのかもしれないのですが、地域の中心に学校があつてほしいなと。まちづくりの観点からも少し考えていただければと思っております。

○平井委員 私も今、松樹委員と同じことを考えていました。資料を見させていただいたときに、海老名市のまちづくり計画で海老名の中でも地域の特色が出ると思うのです。地域の特性を生かして地域が活性化する、そういう中で子どもたちが育まれるというのがいいのではないかと考えています。ですから今後、行政サイドでどんなふうにもまちづくりを計画していくか、それによっていろいろと教育委員会関係も変わってくるのではないかと

と思っています。常にそのあたりのところの連携は必要であると同時に、具体的な対応策が出ていますので、ここのところにプラスアルファがついてくるのかなと思っています。そのあたりを含めて子どもは情報をいただきながら、今後教育の施設も含め、児童の増減等もあると思いますので、そういうところからは公共施設との複合化等も大きな視点になってくるのかなとは考えています。

○内野市長 1つだけ、学校を存続するということと、生徒の教育環境をよくしたり教育内容をよくしたりというのは別個だと私は思っているんです。私も市長である以上、全予算を見なければいけない。10年間は、学校はそのまま残ると私は思っています。そうすると、10年間はこの学校を19校どうやって改修するかという問題があります。その中で視点が必要なのは、大規模改修が必要なのか、あるいは縮小の計画で改修するのか、その視点が絶対必要です。

なぜかといいますと、これは教育委員会のメンバーは県外の市町村の小学校、中学校の実態を見たほうが良いと思うんですけども、私はいろいろな自治体の首長と話すと、甲府はすごく歴史があるのですが、その甲府市は半径2キロ以内に小学校が3つあったそうです。歴史は100年以上全部あったそうです。ところが、その3校を維持するのは大変で1校にしていききたいと言ったら、3年話しても全然がちが明かない。これを阻害している人は誰かという、学校にいる子どもたちと保護者ではなくて卒業した皆さん、あるいは地域の人だと言っていました。それでどうしたんですかと甲府市長に聞いたら、全部3校壊してしまっただけで真ん中に新しい小学校をつくった。これも方法論なのですね。

子どもがいた学校の歴史というのは必要なのですけれども、子どもたちをどうするかという問題も1つの視点として、県内外の事例をこれから考えないといけないというのが1つあります。

もう1つは、つい最近、川崎市で人口増があって小学校をつくったのです。そうしたら小学校をつくった以上、中学校もつくるだろうと思っていたら、市長に聞いたら、中学校はつくらないと。何でと聞いたら、川崎の中学生は中学生になる前にみんな東京の私立に行ってしまうのです。そういう現象があるのです。これは相模原にも同じ現象があります。相模原は10何年前から、20年前から東林間の地域の子どもたちは私立の受験率が3分の2、7割以上が私立を受験します。ところが、キャンプ場のある大島小学校がありますね。あそこの地域は3%しか私立を受験しないそうです。そういった実態もあるので、子どもたちの環境はどうあるべきかというのを考えるに当たっては、いろいろな歴史

がありますけれども、常に財政上は今後どうするかという問題です。

子ども小児医療は中学校まで無料で行っていますけれども、6億円ぐらい使っています。中学校の所得制限をやると1億円か2億円ぐらい浮きます。それをやると、今まで恩恵を受けた人が受けられなくなります。あるいは中学校だけやめてしまえば1億円から2億円ぐらい浮きます。それを学校関係に回してもいいのですけれども、あれもこれもというのはできない状況が、今後5年間は何とかできます。5年間の次には少子高齢化に絶対達しますから、そうすると相当扶助費が伸びますから、そこで財政的にきつくなってきます。この視点は絶対教育委員さんにも持っていただきたい。お金がなくなると何もできません。教育であれば別ですけれども、環境だけはお金がなくなるとできません。ところが、国が全部くれるかという、文科省の補助金が一番低いのです。海老名市みたいな首都圏の市町村には補助金は来ません。これは担当に聞けばわかりますけれども、一生懸命やっても来ないのです。そういった部分で、もう少し予算的な視点を考えていただきたいというのを市長の意見として受け取っていただきたい。

私は10年間はいろいろなパターンで考えていいと思います。ただども1つだけ言えることは、10年間で2校ずつやったら9年間かかってしまいます。改修計画というのは短期でやることです。そうすることによって子どもたちが恩恵をこうむれます。だって、10年間で改修計画をやったら、もう小学校、中学校を卒業してしまうじゃないですか。だからエアコンも中学校から入れたんです。トイレも改修を中学校からやりました。小学校のときは恩恵をうけないけれども、中学校へ行けばエアコンもあるしという形で考えました。そういった計画の中で10年間の改修計画であっても短期的に集中してやらないといけません。

それには、本日学校の先生がいらっしゃいますけれども、1つだけお願いしたいんです。学校の改修計画というのは大体休み期間でやります。こうしますと、工期が間に合いません。それからお金も高くなります。そこで必要なのは、3階建てのフロアがあったら、1階の内装をやる場合は1階の機能を全部体育館に一時移行するとか、それで直して2階、3階とやっていきます。そういった方法をとることも必要ではないか。皆さんの家がそうですね。家を改修するときに1年もかかったら家賃がどこかへ吹っ飛んでしまうじゃないですか。だから一部ずつ使わないところをうまくやっていくわけです。そういった部分で、使えるものを使って改修の期間を短縮する、これは学校長の権限ですから学校の承認を得ないとできません。その部分で夏休みの休み期間を使うということで余りにも限定される

と、何をやっても何年もかかってしまう。短期間でやりたい、3年間でこれを全部内装をやるには先生方の協力が必要です。それには体育館を使用するとか、地域のこういったコミセンの体育館を使うとか、あるいは総合体育館が近いところは総合体育館を使うとか、いろいろな考え方があろうと思いますので、その辺の考え方、視点をお願いしたいと。これは現実にこれからやっていく話でありますから、その議論は必要だと私は思っています。

最終的には学校は昔に戻るのだと思います。適正な人数がいないと学校の維持はできませんから、今言っている40年後というのは、今建築してから最高40年ありますから80年もつ。もたして80年ですから、そうするとICTの機能とかそういうのが損なわれますから、いろいろな部分である程度決断をして、ある時期では統廃合を図って、新しい学校づくりをして、その環境に応じたものをしていくという視点が必要だ。40年もつから40年全部生かそうという考え方を持つと、うちの学校では木造はありませんし、歴史建造物はありませんから。そこは思い切って何年後かに壊して行って、新しい教育環境をつくっていくという視点が絶対必要だと思いますので、その辺の視点をお持ちになっていただきたいという形でございます。

あとは教育長。よろしいですか、私と考え方は同じですか。

○伊藤教育長 基本的には同じですけども、手法はいろいろあるかもしれません。でも、市長が言うように私が全国の教育長連合会の会合に行っても、話題は統廃合なんですよ。海老名は校舎がふえてどうしようかというのが私の課題ですけども、日本中、神奈川県内でもどこの学校でもそうで、あしたはその説明会に行って説明をしなければいけない、絶対いっぱい反対が来るんだとかなんかということをするのですけれども、ただ本当に教育というのは誰のためにやるかと思ったときに、子どもたちのためにやるのであって、本当に子どもたちの育ちにとってこのほうがいいのかというのがあったときには、やはりみんな考えなければいけないときが来るかなと思うんです。子どもたちが社会に出て育つためには、僕自身は小中一貫を今、考え方としてやっていますけれども、子どもたちは保育園、幼稚園から、要するに乳幼児からお年寄りまでが一緒にいる環境の中で学校教育があるというのが私の理想です。子どもにとって自分のスタートからゴールが全部見えている状況の中で自分がそこで学習できるというのが1つの理想と考えていますので、子どもにとって本当に何がいいのかという視点が私にとっては教育で一番大事なかなと思っています。基本的に市長さんと同じ考えで私も考えているところでございます。

○内野市長 それでは、(1)については子どもの視点というのが絶対に必要なので、校舎と

というのはそういうものですから、いろいろな意見がありましたので、それを踏まえて教育委員会の中で、検討委員会でも再度議論をしていただいて、早期に上げるように。今回、来年度予算がもう10月から始まりますから、その部分では、どうやっていくか頭出しだけはしないといけないという問題があります。校舎の内装でもこうやれば早く終わるとか、こういう形だともつのだとか、いろいろあると思います。後ほどすのこの話が出ますが、いろいろな関係で考えて研究をしていただきたいと思います。

○内野市長 次に協議事項(2)学用品等の経費負担のあり方についてを議題とします。

○就学支援課指導主事 就学支援課の別府でございます。よろしく申し上げます。座って失礼いたします。

教育委員会では保護者負担経費検討委員会を設置して学用品などの経費の負担のあり方について検討しています。検討委員会の構成メンバーは、PTA会長など保護者の方、校長先生など学校関係者、教育委員会事務局で7月27日に第1回の委員会を開催しました。

会議では市の保護者の負担の状況を説明し、協議を行いました。制服や指定の上履きなどで10万円以上かかった、一度の支出は痛かったが公費もかなり出ていると思った、制服は高いが、3年間もつ丈夫なものになっている、私服にしたら、多感な時期のためさらに金額がかかる場合もある、ある中学校では運動着の指定をなくし、白Tシャツの使用を認め、指定より安く用意できるようになった、ジャージ等は同品質で安く売っている店がある、まだまだ価格を下げる余地はある、柔道着は買っても年に何回使うかわからない、柔道着以外でも先の支出の予定を知りたいといった意見が出されました。

また、教育委員会ではこれと並行して、小中学校の全保護者を対象に保護者の経費負担に関するアンケートを実施し、約1,500人の方から回答をいただいております。現在集計を行っておりますが、自由記述の中には、彫刻刀や柔道着などの学校でしか使わないものは共有したほうがよい、裁縫セットなど将来的にも長く使用できるものは保護者負担でもよい、学校徴収金は直前ではなく、もっと前に知りたい、もっとリサイクル制服の販売を充実させてほしい、ワイシャツ等は指定のものでなくてもよい、農業体験は海老名でもできるから県外で行う必要はない、修学旅行や卒業アルバムは内容を削ることで安くするなら現状のままがよいなど、さまざまなご意見をいただいております。

今後はアンケート結果も踏まえ、検討委員会で議論しながら、委員会として公費負担のあり方、公費負担によらない負担軽減策、購入品目別の方向性など議論してまいります。

また、来年度の予算に反映できる点は検討委員会として適宜教育委員会に提案してまいりたいと考えております。なお、市長からも前回、教育委員会の中でしっかり検討してもらうため、総合教育会議として課題提起したいとお話しいただいておりますので、この場でお願いできればと思います。よろしくお願ひいたします。

○内野市長 今まで保護者負担軽減というのをいろいろやってまいりましたけれども、教材費を小学校1年生、中学校1年生については無料とか、あるいは準要保護の関係でも引き上げをしましたし、さまざまやっていますけれども、皆さんからご意見がありましたらどうぞ。

これは教育委員さんは誰も入っていないのですか。

○伊藤教育長 教育委員さんは入っていない。教育委員会へ報告があるので、そこでまた再度決めますので。

○内野市長 それは検討委員会で結論ではないよね。

○伊藤教育長 そういふことです。

○内野市長 考え方だよね。

○伊藤教育長 はい。だから教育委員さん方で話し合ってもらおう。

○内野市長 何かありましたら。検討委員会に向かってでも構いませんし。

○松樹委員 検討委員会で出てきた答申といいますか、報告を見てまた皆さんで議論をしたいと思うのですが、例えば柔道着があったらいいとか彫刻刀があったらいいとか、しっかりと中で取捨選択をした中で答申を上げてきてほしいなというのが一番と、あとここには書いていないのですが、ここで議論しようとは思わないのですが、前回は教育長がおしゃっていた説明責任というのが私は非常に重要だと思うのですね。例えば修学旅行費は、何でその場所に行くのかというのを親から問われたときに、ここでなくてもいいのではないかと、ほかの中学校の内容等を見ていると疑問に思うことがありますので、保護者としては言われれば幾らですというお金を払う。修学旅行の説明会に行っても、内容も場所も全部決まっています、これですという形で議論の余地がない話ですので、しっかり説明責任を果たすという中で、検討委員会の中でもしっかりと議論していただきたいと思っております。

○岡部委員 私は公費負担について考えているのですけれども、今、海老名市ではいろいろな保護者の負担軽減のための政策が打たれておりますし、近隣でもかなりいいレベルにあるのではないかとはい思いますが、負担は少ないにこしたことはないのですが、軽減さ

れると、それが普通になっていくわけで、一方では二、三年でそれをやめることもできないだろうと思います。市長の政策判断もあろうと思いますけれども、検討委員会でどこまで公費で補助してもらおうよというようなことも議論の幅を広げていただければなと思います。私は個人的には、選択できないもの、選べないものについては、負担はないほうがいい、少ないほうがいいなと思っています。

○海野委員 検討委員会のほうでも、そこに書いてありますけれども、いつ何を使うかの先の予定を前もって知りたいと、こういう意見が出ていますけれども、修学旅行にしても高額なものは前もって、この時期にこういう金額が必要なのですよということを知っておきたいし、もしわかりましたら4年生ぐらいから積み立てるとか、一気にお金を請求されるのではなくて、徐々にというのができないか。一番金額がかさむのがアルバムとか修学旅行ですので、その点は知りたいと思います。

あと修学旅行ですが、先ほど出ていましたが、学校も大変でしょうけれども、いろいろな業者と検討していただいて、入札方式で安全面とか質の向上、また経費の削減、そのあたりを考慮していただけたら、もう少し経費の削減につながるのではないかと思います。よろしくをお願いします。

○平井委員 ここに保護者意見の集約、分析ということがありますので、ここは大きいかなと思います。保護者がどんなふうに負担を感じているのか、この集約、分析によってある程度の方向が出てくるかと思います。その中で公費負担のあり方は先ほども出たかと思うのですが、公費負担と保護者負担とのすみ分けというのですか、そのあたりのところは今後分けていかなければいけないと思うのですが、公費負担をするならば、ある程度持続可能であるもの、子どもたちが学んでいく中で持続可能で公費負担でできるもの、そのあたりのところをきちんと分けていかないと、一度決めて、だめですではなくて、子どもたちが学んでいく中で必要最低限のものは公費というような形できちんと分けていけば、保護者の理解も得られるのではないかと思いますので、今後、保護者意見の集約、分析を待ちたいと思います。

○伊藤教育長 これは他市の人たちから、また伊藤さんはパンドラの箱を開けたなとよく言われるのですけれども、ほかの市でこんなことを議論することは全然ないものでございます。ただ、義務教育は無償だと憲法には書いてあるのですけれども、どこまで無償なのかなと考えたときに、私はこれはまず議論が必要かなと。親も地域もみんな考えてみて、そうすると、では教育というのはどこが大事なところなのか。私は教育の立場ですので、

結果としてこれを通して何かが見えてくるかなと思って楽しみにしているところでございます。

もちろん海老名は市行政の理解があって本当に公費負担が厚いんです。でも、だからといって、みんなそれによってそのまま過ごしてはいないか。もう少し学校も教育委員会も保護者も話し合ったら、本当に安く済むことがあるのではないかと思うんです。

第1回目の議論の中で具体的に一番おもしろかったのは、柔道着をどうしているか。ある学校は購入させています、ある学校はレンタルですといったら、レンタルの値段だったんです。ある学校は、うちは2,000円のレンタルですと。ある学校は、うちは1,000円を切っていますと。今までこんな情報交換がなぜなされていなかったのか。そうしたら一番安いところでやればいいわけじゃないですか。でも、それぞれ独自にやっていて、親御さんは確実に子どものためと払ってくれるから、何の努力もなく幾らかかりますと平気で出していたものを、みんなで話し合っただけで知恵を出し合ったら、本当に少しでも安くなるということがわかったというのが1つで、それはおもしろみでもあるし、今後、公費負担もそうですけども、主体的に保護者も学校も教育委員会もそれを少しでも少なくするという思いでみんなで連携協力するという姿勢がずっと必要かと思っていますので、その辺が議論の発端になるといいかなと思っていますところでございます。

○内野市長 これは本当に難しいなと思うのは、歴史的な問題があって、購入方法の問題もあるのですね。今、私費か公費かいろいろありますけれども、現実には今の小児医療無償化だって昔はあり得なかったじゃないですか。今、無償なんですよね。そうしないと、子育て環境の競争になってしまっている。私も競争にはしたくないのですけれども、先ほど岡部委員が言った選択の余地がないものは負担をしたくないというのはありますよね。これは現実の話で。私は事例を1つ挙げたいのですけれども、今後、中学校は6校あるけれども、1校で柔道着というのは何着必要なのか。みんな持っているんだけど、授業は1、2、3年間柔道をやりますか。

○柏ヶ谷中学校長 3年間やります。

○内野市長 3年間やるということは、週に1回やるということ？

○柏ヶ谷中学校長 いや、3回です。週3時間で10カ月ぐらいだから……。

○内野市長 1年、2年、3年の1学年で1年間、何時間その柔道着は使われる？

○柏ヶ谷中学校長 10カ月ぐらいが武道の授業の割り当てになるので、4週間で12コマぐらいは最低やっています。

○内野市長　そこで先生方に聞きたいのだけれども、柔道着を1学年でずっと使うということは、1人がずっと使うと考えると、3,000人の中学校でいくと3,000着必要ですよ。それを共有にしたら。1着を1人が2回使ったら1回洗濯へ出してしまうんです。単純計算でいくと、2人で1着を使う、3人で1着を使うと、クラスがあるわけだから、1年生が全部やるわけではないでしょう。1週間で時間的にずれがあるでしょう。

○柏ヶ谷中学校長　大体学校だと学年ごとにやる時期をずらしています。1年生が例えば10月にやって、2年生が11月にやって、3年生が12月にやるような形でずらしてやっています。

○内野市長　それでは3分の1で済むじゃない。3分の1で済む問題を、来年できるかわかりませんが、柔道か剣道かといろいろ議論があったときに、柔道着の話が出たんです。教育委員会は私にこういう答弁をしました。リースがあるので安く終わりますと、そういう話をしました。ところが、今学校でばらばらになっていますから、そこで買っている人もいらっしゃるから、あのときに踏み切る必要があったと思います。市教で買ってしまっただけで学校に貸与させてしまうんです。3分の1で済むのだから、1,000着買って学校に配置してしまう。全部で6校ありますからあれですけども、3,000人ぐらいいますから1,000着買う。1,000着買うと、柔道着というのは1着幾らですか。ほら、これは保護者負担ですから、校長先生もわからないと困りますよ。そこで4,000円ぐらいのを1,000着買ったら400万円じゃないですか。考えると、1カ月1年生がやったら1回洗濯屋へ回してしまうんです。回してしまったら次の月に使える。そういうローテーションでやれば、公費負担で市教が予算化して買ってしまえばいいんです。それを踏み切れなかったということは何かというと、あのときは教育長ではなかったんだけど、こういう説明だったんですよ。リースでやれば負担はそんなにかかりませんと。ところが、柔道着というのは3年間使っても12コマしか使わないものが残ってしまうので、やはり古着へ出てくるとかいろいろありますから、柔道をやらない人はいいですが、やらない人もいらっしゃるから、そういうことを考えて、その部分では公費負担を考えてもいい。では、買った人はどうするのかという問題は、その部分は回収してもらって、その部分をどうするか。いろいろな議論がありますけれども、二、三年かけないとできないと思います。今から始まって二、三年かかります。そういったことで考える必要もあるのではないかと思います。

制服も議論があって思ったのは、3,000着の制服があればいいのだなと思いました。3万円だったら9,000万円だなと思いました。一回市役所から貸与して、それをよく大学の卒業

式であるじゃないですか。ガウンみたいな、ああいった形とかいろいろなことを考えれば、正規の制服はそういうものでやっておいて、ふだんはある程度ラフな感じでもいいのではないかと私は思うんですけども、保護者の意見もあったり、はっきり言っているいろいろな議論がありますから。

1つだけ言えることは、ここで思うのは、私服では多感な時期でさらに金額がかかるかもしれないねと保護者の方は言っているんですよ。これは不安であって、学校と連携しながら、スマホもそうですし、学校が買ったわけではなくて、それぞれの保護者がスマホを買っているわけです。そのスマホを学校で規制するとか市全体で規制するということも出てきますけれども、保護者が与えたものは保護者が責任を持って子どもとの関係で何とかする。それによって影響があったものについては、いじめとかありますよね、これは教育委員会とか行政としてしっかりとフォローしないといけない。だけど、スマホを使う時間まで市教とか学校にお願いされても、これは問題があるだろうといつも私は思います。愛知かどこかでスマホを禁止しましょうと。これは買った本人は誰なのかと追及すると、保護者が与えたものですから、これを規制するのは保護者であるべきだと私は思います。これで学校のほうに影響がある場合については学校との議論が必要だと思いますけれども、これは本日PTAの方もいらっしゃいますから、全部を教育委員会とか学校にお願いされてもできない問題はあります。

そういう中では、柔道着の話とか、この間、市長への手紙で修学旅行の話も来ました。これについては説明責任をしっかりと果たすような形と、安い方法を考えることが必要だと思います。私がスピード感を持ってやってくれというのは、来年10月か9月に結論を出しても、来年の人はどうするのか困ってしまいますので、ある程度頭出しをしながら、検討委員会の結論を制服はこうあるべき、あるいは柔道着はこうあるべき、一定方向を1個ずつ検討委員会を出していただいて、教育委員会で最終結論を出すわけですから、これは十分に組織的にもしっかりしていただきたいなと思っています。

これについていいですか。

時間が押しています。(1)と(2)について傍聴の方は何かありますか。他にないようですので、協議事項2については、以上といたします。

○内野市長 次に協議事項(3)児童・生徒の登下校の安全についてを議題といたします。よろしくをお願いします。

○就学支援課主査 就学支援課の尾山です。よろしく申し上げます。着座にて説明させていただきます。

児童生徒の登下校の安全についてご説明いたします。今年度の児童生徒の登下校の安全対策につきましては、さきに開催されました第1回総合教育会議にてご協議いただきましたので、今回は通学路安全対策委員会及び通学路改善要望書の具体的な内容についてご紹介いたします。

海老名市では平成17年4月1日に海老名市立小中学校通学路安全対策委員会設置要綱に基づき、通学路安全対策委員会を設置しました。この通学路安全対策委員会とは何か。これは、市内の小中学校に通う児童生徒が安全に登校できるように、通学路の安全対策を検討する組織でございます。この委員会の構成メンバーでございますが、次のようになっております。まずは海老名警察署、市道路維持課、道路整備課、地域づくり課、そして就学支援課となります。

次は、この委員会のスケジュールを紹介いたします。まず6月に市内の小中学校19校から通学路改善要望書が提出されます。その後でございますが、今年はまだ既に終了しましたが、8月8日に通学路安全対策委員会を開催いたしました。ここでは各校から提出されました改善要望書の内容について、どの部署が改善手法を検討するのかが話し合われ、また合同点検箇所も選定いたしました。なお、構成メンバーには記載されておきませんが、改善要望書には県道に関する要望も多くございますので、県道を管理しております神奈川県厚木土木事務所東部センター道路維持課、また市道を管理いたします市道路管理課にもご出席をいただいております。この委員会で選定いたしました合同点検箇所につきましては、既に一部実施しておりますが、8月22日から9月14日にかけて14校26カ所の点検を行います。そしてその後ですが、9月から10月ごろに各部署で改善方法の検討を行っていただき、その検討内容につきまして、市長及び教育長に確認していただくこととなります。確認後、遅くとも12月中には各校へ要望書の回答を送付する予定でございます。

次に、各校から提出された通学路改善要望書の内訳についてご紹介いたします。まず①、全体の43.3%ですが、これが新設要望78件でございます。次が38.9%、これが修繕要望の70件です。次が7.8%ですが、電柱幕設置要望が14件。そして10%、これがその他の要望で18件。合計で180件の改善要望書をいただいております。

次に、新設要望とは何かについてご紹介をいたします。ここでは例としてグリーンベルトの設置について紹介いたします。まず整備前ですが、このように何も無い道路に、整備

後にこのようにラインを引く、こういった何もないところに新たに設置してほしいといったのが新設要望でございます。ここではグリーンベルトを例といたしましたが、ほかにも白線を引いてほしいとか、警察の管轄になりますが、横断歩道の設置、または信号機の設置等がございます。

次は修繕要望でございます。ここでは白線の引き直しについてご紹介いたします。修繕前はこのように白線が消えかかっているのを直してほしい、そういったのが修繕要望なのでございますが、このように線が新たに引き直される、こういったものが修繕要望です。これ以外にもグリーンベルトの引き直しですとか、路面標示の引き直し、また横断歩道の引き直し等がございます。

次に、電柱幕の設置要望でございます。このように何も張りつけていない電柱に「学童多し注意」とか「通学路につき徐行」といったものを張りつけることにより、主にドライバーに注意喚起を促します。

ここでは紹介しておりませんが、その他の要望とは何かについてご説明いたします。具体例を挙げますと、スピード違反を取り締まってほしいとか、カーブミラーの角度を調整してほしい、あとは以前、不審者が出たのでパトロールを強化してほしい、そういったものがその他の要望でございます。

最後に、今泉中学校の学区内で市の道路整備課が行います2つの歩道設置工事についてご紹介いたします。まず1つ目は市道307号線道路改良工事でございます。場所は今泉小学校東側旧日立社宅前の水路、中央排水路と呼ばれるところでございます。整備前はこのような開渠の状態となっておりますが、整備後は南北に流れる中央排水路にボックスカルバートを設置しまして、その上部を歩道として整備します。歩道幅員は4.5メートルでございます。この箇所につきましては、平成28年度から一部着工しております。

そして最後の2番目ですが、市道2号線歩道設置事業でございます。場所は今泉中学校北側、下今泉4丁目地区です。整備前はこのように歩道が設置されておきませんが、整備後はこのように幅員2メートルの歩道が両側に設置されます。なお、今年度につきましては、画面に見える梨畑、その反対側の田んぼの手前までの約60メートルの区間に歩道が完成いたします。

説明は以上です。よろしくお願いたします。

○内野市長 時間も詰まっていますので、この点についてはよろしいですか。予算上の問題もあって、幕をつけるとか引き直せというのは簡単なんです。新設道路自体が大変な

ので、地元の方と用地交渉もあるという形で、それは回答をしっかりとしていきたいなと思っています。

1つだけ、横断歩道とか信号の問題は警察署の管轄がありますから、これについては神奈川県公安委員会が承知しないとできませんから、強く要望していくという形で、よろしくお願ひしたいと思っています。これについては報告ということで、ちゃんとしっかりPTAのほうに報告するように、納得してもらえらるような形で説明してください。

○平井委員 私は今回この対処、安全対策はすごく評価したいと思います。今までもあったのですが、各学校単位で何か対応しないといけな部分が多くて、なかなか改善をしていくのに難しさもあったのですが、今回、通学路安全対策委員会の活動が表面に出てきて、市、それから他課との連携ができて、本当に目に見える形でいろいろな安全対策がとられてきていますので、私は今回これはすごく評価をしたいと思っています。

○内野市長 それでは、協議事項(3)については以上といたします。

○内野市長 次に協議事項(4)上星小学校児童会からの学校に関する要望・提案についてを議題といたします。

こちらにつきましては、司会の教育部長に一旦進行を戻しまして、よろしくお願ひいたします。

○教育部長 ありがとうございます。それでは、議題に入ります前にレイアウトを変更します。少しお時間をいただきます。

(レイアウト変更)

それでは、改めまして協議事項(4)上星小学校児童会からの学校に関する要望・提案についてでございます。この取り組みは、子どもたちの新しい発想、柔軟な考え、そして夢のある提案等をお聞きして教育施策の参考にしたいため、企画したものでございます。

それでは早速ご入場いただきたいと思ひます。大きな拍手でお迎えください。

(上星小学校児童会入場、拍手)

○上星小学校児童会児童1 こんにちは。私たちは上星小学校児童会の運営委員です。きょうはお時間をいただきありがとうございます。これから私たちが学校でもっとこうなったらいいなと思ひていることを発表します。聞いてください。

上星小学校には図工室や理科室や家庭科室などがあります。そこには木製の4本足の椅子がたくさんありますが、古くてぐらぐらしているので直してほしいです。椅子が古く不

安定だったため、椅子から落ちてけがをした子がいます。

また、上星小学校には各クラス大きな窓が4つ付いています。授業中に換気のため窓をあけていると虫がよく入ってきて、そのたびに授業が中断されてしまうので網戸をつけてほしいです。

以上、図工室の椅子を直してほしいことと、窓に網戸が欲しいことを提案します。

○上星小学校児童会児童 2 上星小学校では3年生から5年生の1クラスの人数がとても多いです。1クラス35人から40人で勉強しています。なので、1クラスの人数が多い学年は1クラスふやしてほしいです。

また、上星小学校のげた箱にはすのこが敷いてあります。靴をすのこの上で履きかえるのですが、すのこにひびが入っていたり割れていたりしているので、直してほしいです。すのこが壊れていると、けがが起こりやすいと思います。

以上、1クラスの人数が多い学年は1クラスふやしてほしいことと、げた箱に敷いてあるすのこを直してほしいことの2つを提案します。

○上星小学校児童会児童 3 上星小学校には屋上があります。その屋上には何もありません。もっと屋上が使えたらいいなと思います。例えば理科の観察などで便利に使える天文台や展望台、ビオトープが欲しいです。

また、廊下には荷物をかけるフックがあります。そこに手提げや体操着、絵の具セット、習字セットなどたくさんの荷物をかけています。だから、工夫してもぐちゃぐちゃになって荷物が落ちてしまいます。そこで、荷物をかける場所をふやしてほしいです。

以上、屋上の有効活用と荷物をかける場所の2つを提案します。

○上星小学校児童会児童 4 私は音楽が好きで、授業をいつも楽しみにしています。しかし、合奏のときに楽器が足りなかったり壊れていたりして、ほかの楽器を使っているので、追加、修理してほしいです。

また、学校西門のすぐそこに、かいな坂という狭い急な道があります。土だけで固めていて、大雨が降った際に崩れてしまうかもしれません。遠回りして登下校する児童もいるので、補修をしてほしいです。

以上、音楽室の楽器の追加、修理と、かいな坂の補修をしてほしいことを提案します。

○上星小学校児童会児童 5 現在、さまざまな場所でパソコンやスマートフォン、タブレットが使われているかと思います。そこで、上星小学校もタブレットを利用した授業をしてほしいです。タブレットを使うことで児童の興味を引き、理解力が高まるという実践結

果もあります。しかし、ゲームなどができてしまうという欠点があります。そこは教育用タブレットを使い、制限することができます。

また、上星小学校にはバスケットゴールやコートがあり、授業や遊びで使っています。中にはネットが破れていたり、対になっているゴールの高さが違ったりして、授業をするにも大変です。だから、バスケットゴールの整備をしてほしいです。これは私のクラスで最も多かった意見です。

このような理由から、私は以上のタブレットを利用した授業をしてほしいということと、バスケットゴールの整備をしてほしいという2つを提案します。

○上星小学校児童会児童 6 上星小学校では今、鶏を11羽飼っています。その飼育小屋を新しくしてほしいです。以前、蛇やネズミにひなが襲われてしまったことがあります。これからは二度とこんなことがないような飼育小屋にしてほしいです。

また、上星小学校の体育館には昔から使っているマットがあり、今もマット運動や跳び箱などでたくさん使っています。古いマットの中には布の切れたものもあり、足が引っかかってしまい、危ないと思います。だから古いマットを新しくしてほしいです。

以上、飼育小屋を新しくするというのと、古いマットを新しくすることを提案します。

○上星小学校児童会児童 きょうは私たちの提案を聞いてくださり、ありがとうございます。これからも小学校生活を楽しく快適に送りたいと思っています。よろしくお願いします。(拍手)

○教育部長 上星小学校児童会の皆さん、ありがとうございました。

それでは、今の提案に対して、全体を通しての教育委員会事務局の回答を申し上げます。

○教育部次長 たくさんの要望とご提案ありがとうございました。上星小学校の皆さんが学校で勉強している中で、困っていることや学校にあったらいいなという施設がいっぱいあることがよくわかりました。

教育委員会では校長先生からも学校の中で修理をしてほしい場所であるとか、もしくは施設をよくしてほしいという要望を毎年意見を聞いています。その中には、すぐできるものもあるんだけど、計画的に行っていかなければいけないというものもございます。それらについて各学校、特に校長先生や教頭先生ともこれからも打ち合わせをしながら進めていければなと思っています。

また、本日皆さんからいただいたご要望については、可能な限り実現できるように教育

委員会としても取り組んでいきたいと思っています。また、いただいた要望の中には、皆さんの工夫で実現できるものもあるのかなと思います。ぜひ校長先生ともお話をさせていただいて、見ていただければなと思います。これからも、よい学校をつくるためにみんなで一緒に考えていきましょう。

○**教育部長** それでは、ここから協議をお願いしたいと思います。進行につきましては、市長、お願いいたします。

○**内野市長** 教育委員さん、特別にあれば。私と教育長が話すと終わりになってしまうので、どうぞ。

○**海野委員** 本日はありがとうございます。皆さん、楽しい学校生活を送っていると思いますけれども、このように結構不自由なことがあるんだなと思ってかわいそうになりましたけれども、今度はちゃんと考えて皆さんの要望を聞くようにしますのでありがとうございます。

○**平井委員** 子どもたちは1日の約3分の1の時間を学校で過ごしているんですね。安全が確保されて安心して学校生活を送れて勉強ができること、これが一番だと思う。今回出していただいて、子どもたちの目線で学校の今を現状把握して、自分たちの学校をよりよくしていこうという気持ちがきょうの中に込められていたのではないかなと思います。日々生活していく中で、みんな安全な場所で生活をしたい、そういうふうな気持ちが、皆さんが代表してきょう発表してくださったのですが、学校みんなの思いであるかなと本日感じました。

本日発表されたことをすぐにできるもの、時間がかかるものがあるかと思いますが、私も現場にいた者としては、これは今後教育委員会で話をして早急に解決して行って、みんなが生活しやすい、勉強しやすい学校にしていくようにしていきたいなと思いますので、今後ともみんなの力でまたよりよい学校づくりをして行ってほしいなと思います。

○**伊藤教育長** 実を言うと、彼らとは2回話をしました。ここに来たのは2個だけですけども、10何個あったんです。各クラスでみんな話合ったらいっぱい出てきたんです。その中には学校を午前中にしてほしいとか、自転車に通わせてほしいとか、それはそれでよかったなと思って。今、具体的に言うと物になっているのですけれども、こんなのは即刻やるのがいっぱいあるので。でも上星小学校の校長先生と話しても、子どもたちの好きなもの、子どもの視点で全部出していいから、学校がどうだとか教育委員会がどうだということではなくて、子どもの視点で考えて、ちゃんと子どもの意見も私も聞かなければ

いけないかなと改めて思ったんですよ。大人は大人で考えて、大人なりにやるんだろけれども、子どもは子どもで思いがあるわけだから、それはあれかなと。毎年毎年教育予算で各学校に数百万円行くんだけど、その中の10万円分は子どもにあげてしまって、子どもたちが考えて、ここをやるとかなんとかやってもいいんじゃないかなと思うぐらいなんですよ。本当にはっとさせられました。

その子どもに対して大人の責任は、うだうだ言わないで、やることはやるとか、はっきりどんどん始めないと、市長はそれを言いたくて言いたくて今たまらないと思うんですけども、そういうものだと改めて感じさせられたので、子どもたちに今出されたのを支援し、真剣に受けとめて、君たちがやることと教育委員会でやることですぐに取り組みたいと思いますので、あとはそれぞれ計画的に校長先生も実は取り組んでいることがあるので、皆さんの要望の中で学校と教育委員会が進めていることもありますので、それについてはまた校長先生からお話を聞いてください。本当にありがとうございます。

では、市長さん、お願いします。

○内野市長 ありがとうございます。市長としてこれだけはお話ししておきたいと思います。

まず図工室、理科室の椅子のぐらぐらするのは早急に直してください。

それからげた箱のすのこ、全校、19校で使われているすのこを全部チェックするように。それで一括購入してしまってください。早急にすのこ自体を直すように。言っている意味はわかりますか。各学校にすのこを任せているわけですが、19校一括して教育委員会が購入します。すのこの規定を決めてください。それぞれ学校に合うすのこ合わないすのこがあると思います。共通部分のすのこは、今まで学校が発注していたものを教育委員会で一括購入して、その購入した余りについては、悪いところがあったときに補充することにしてしましよう。今までこんなことを考えたこともなかった。すのこは学校単位でやっていましたから。その部分については教育委員会が一斉調査をして、何枚学校で必要なかを調べて、基準のすのこについて一括して購入してください。今は上星小学校は悪いところがありますから、それは危ないから早急に手直しができるところは手直ししてください。

それから廊下のフックがけは学校が自由にやってください。ホームセンターでフックはいっぱい買えるじゃないですか。

○上星小学校長 フックはいっぱいあるんですけども、フックをつける場所がないんです。

○内野市長 そういうことか。ひっかかるところがないんだ。わかりました。そうすると、その部分は先ほどの網戸の関係等がありますから、教育委員会と改築、改修の段階でやるしかありませんね。

それからバスケットゴール、これも体育館の改修は別にして、マットとかいろいろあるじゃないですか。その必要なものについて全部チェックするように。バスケットゴールは今年中にすぐに直します。それからマットもそういった形でやるように。先生方、申しわけないのですけれども、児童が言ったからといって、これから言うなと言わないようにしてください。これは現場の声ということで判断していますから。校長先生の管理責任がないなどとは絶対言いませんから、一緒になってやる。

そういった部分でできることを早急に調査してやるようにしてください。予算上かかりますから。消耗品費でできるものは消耗品費でできますから、予算上、消耗品費で先に動かしてやってください。それは事務的にわかると思いますから、やっていただきたいと思っています。

しかしながら、難しいのは40人クラスの教室が狭いということと、屋上の展望台、ビオトープが欲しいというのは、屋上が耐水になっていればいいのですね。ビオトープなどをつくってしまうと、水を入れると雨漏りしてしまう可能性がありますから、その辺の調査をしないといけない。これは改修計画の中でしっかりとやっていきたいと思っています。

楽器を直すとかそれについては、直すことは直していきたいと思いますが、皆さんが楽器を大切に使うという気持ちがあれば、それでも壊れてしまいますから、その部分についてはしっかりと対応していきたいと思っています。対応するということは、やるということですから、即やるということができないかは教育委員会の判断で、私は即やれと言っていますけれども、私があしたやれと言っても教育委員会は1カ月かかりますから、そういう問題で期待をしてください。

タブレットの問題は、今、教育委員会で検討しています。タブレットにするのかウィンドウズにするかいろいろありまして、今回、補正予算をつけて研究をすることになっています。来年からどうしようかということで今悩んでいますので、その結論が出れば、パソコン教室が要らないということになればタブレットでできます。どっちがいいかは、今、教育委員会は悩んでいますから、中学校のときには確実にはっきりしている問題です。ここ1年間ぐらいで研究のあれが出ますので、小学校では無理だと思いますが、中学校でははっきりした形になってあらわれるということで約束はしていきたいと思っています。

鳥小屋を新しくしてほしいというのは、直すことは直してやっていきたいと思っておりますから、どういう状況かというのを確かめてやっていく。鉄骨の網戸やなんかをつくとだめなんですね。木造でつくっていけば手直しができるけれども、その辺はどうするか、今後、教育委員会がやると思います。

いいですか。直らなかつたら市長への手紙をください。今、市長への手紙は子どもたちからが多いですよ。市長さん、こうやってほしいとか。本日言ったことは約束事ですから、やる方向を出してやりますけれども、直っていなかつたら市長への手紙でも構いませんからください。

以上です。本当に本日はありがとうございました。

それでは、教育委員さんからそれぞれ質問がありますから、質問していただいてもいいですか。

○海野委員 皆さんはどんなクラブに入って活動をしていますか。

○上星小学校児童会児童 僕はソフトボールクラブに入っていて、チーム分けをして、いつもクラブの時間は試合をしています。

○海野委員 困ったことはないのね。

○上星小学校児童会児童 困ったことは今のところはないです。

○上星小学校児童会児童 私は化学クラブに入っていて、クラブの時間に実験とかをします。困ったことは特にはないです。

○上星小学校児童会児童 私は卓球クラブに入っていて、クラブのときは試合をしたり、その試合のチーム分けとかは休み時間にくじ引きとかしたり、あと直してほしいところがあるんですけども、卓球台が使いづらいのではないけれども、ちょっとあれなのと、あとラケットがめくれているのが何個もあって、そこを直してほしい。

○上星小学校児童会児童 私は調理クラブに入っています。クラブの時間にもともと計画していたものをつくったりしています。

○上星小学校児童会児童 僕は陸上クラブに入っています。運動をしたり走ったりしています。

○上星小学校児童会児童 私はパソコンクラブに入っていて、シールとかカレンダーをつくったりしています。

○松樹委員 本日は本当にありがとうございます。私も上星小学校の卒業生です。すぐ下にお寺があると思うのですが、そこのお寺の住職をしております。一言で言って、上星小

学校ってどんな学校ですかと聞かれたら何と答えますか。1人ずつ聞きたいのですが。いいところでもいいので。

○上星小学校児童会児童 楽しい学校です。

○上星小学校児童会児童 桜がきれいな、いい学校です。

○上星小学校児童会児童 みんな元気でいい学校だと思います。

○上星小学校児童会児童 明るく元気な学校だと思います。

○上星小学校児童会児童 自然豊かな学校だと思います。

○上星小学校児童会児童 楽しく快適に送れる学校だと思います。(拍手)

○内野市長 ほかにありますか。

市長さんから1つだけ聞いていい？ 今、夏休みをこうやって40日あったものを短くして行って、学校の授業を少しやって30日とか20日間にしようと。皆さんはどう思いますか。夏休みは長いほうがいい？ 間があったほうがいいと思う？ どうぞ。順番ではなくて自由発言でいいですよ。

○上星小学校児童会児童 長いほうがいいです。

○内野市長 長いほうがいいと思う人、今の現状の40日がいいと思う人は手を挙げて。今は40日ぐらいあるのだけ。35日ぐらいあるんだよね。1カ月ちょっとあるんだけど、そのほうがいいと思う人。今のほうがいいと思う人。

もっと短くていいと思う人。いないんだね。子どもはやっぱり長いほうがいいのか。

修学旅行はどこへ行きたいですかね。6年生はもう行った？

○上星小学校児童会児童 これから行きます。

○内野市長 どこへ行くの？

○上星小学校児童会児童 日光。

○伊藤教育長 日本中でみんなで行きたいところがある？

○内野市長 市長さんはいつもこう言っているんですよ。昔は市長さんも日光だったんです。そのとき高速道路はなかったんですね。ずっと朝6時からバスで行って、日光へ着くときは、ご飯はお弁当を持って行って、向こうへ午後着いたんだね。1泊で華嚴の滝とかいろいろ見て帰ってきたけれども、今、日光というのは3時間あれば行ってしまいうんですよ。だから教育委員会に、朝早く出て行って、世界遺産の中尊寺というのがあるんです。岩手にある中尊寺。中尊寺に行って、仙台を見て、白石で泊まったらという話をする。そうすると、教育委員会にはそんなことはできないと言われているんだけど。そうすれ

ばお金を少し出してもいいなと言ったんだけど、それは学校の判断で。今、交通でこうやって行けるじゃないですか。さがみ縦貫道路ができて、せっかくだから一気に岩手まで行ってしまおうんですよ。そうすると5時間ぐらいで行けるのですね。5時間で帰りがけに仙台市を見て、松島を見て、白石に泊まって、それから日光を見て帰ってきてもいいんじゃないかなと思っているわけ。

○伊藤教育長 行きたいところはあるの？ みんなでここに行ったら楽しいなというところはないの？ あまりない。あなたもないの？ あったら言っていていいんだよ。どこか行きたいところがあるなら。ある？

○上星小学校児童会児童 私は、ちょっと無理があるかもしれないのですが、ディズニーリゾートにみんなで行ってみたいです。

○内野市長 それも提案したんですよ。ディズニーリゾートでもいいんじゃないかと、シーでもいいんじゃないかといろいろ言ったんだけど、遊びではないと言われたのだけど。

○伊藤教育長 5年生からも何か行きたいところはない？

○上星小学校児童会児童 あります。

○伊藤教育長 子どもたちはどう考えているか。

○内野市長 遠足ではディズニーリゾートは行かないの？

○上星小学校児童会児童 行かない。

○上星小学校児童会児童 本当に無理があるんですけど、沖縄県の琉球王国を見てみたいです。

○伊藤教育長 沖縄に行ってみたくとか、ほかに夢はない？ あるんだ、どこに行きたいの？

○上星小学校児童会児童 無理だとは思いますが、ユニバーサルスタジオジャパンに行ってみたく。

○上星小学校児童会児童 僕は京都とか奈良のほうに行きたいと思います。

○上星小学校児童会児童 私も京都とか奈良へ行って、いろいろな昔の建造物とかを見たいです。

○内野市長 参考に。うちの孫がことし、中学校3年の修学旅行で青森に行って、体験で一日中ニンクむきをやってきました。本当にそうだよ、行きたいところってありますよね。私も沖縄はいいと思います。中学校で飛行機で沖縄に行かせたい。そういう市もあ

るんだよね。体験でやるのもいいけれども、歴史を見ることも必要だし、沖縄というのは本当にパラダイスみたいな感じだけれども、南部へ行くと被災地のあれがあるし、そういった面では戦争というのはいけないなという平和教育にもなるし、いろいろ教育委員会で今後、修学旅行について検討されたらどうかと思います。

担当は誰ですか。小宮先生、よろしくをお願いします。校長先生の権限？

○**教育部参事** 学校ごとに行き先は決めていただいております。

○**内野市長** では、よろしくお願ひいたします。

それでは、ほかに皆さんからありますか。ないですか。

それでは、どうもありがとうございました。皆さん、大きな拍手で。(拍手)

それでは、意見もこれで終わりますけれども、傍聴の皆さんから何かありますか。締めてよろしいですか。ここだけは言っておきたいというのがありましたら。

よろしいでしょうか。それでは、これで第2回の総合教育会議の議事をすべて終了しました。岡田教育部長に進行を譲ります。

○**教育部長** ありがとうございました。上星小学校児童会の皆さんは大分緊張して、すごく練習をなさっていたと聞いています。どうもありがとうございました。

それでは1件事務連絡でございます。第3回、次回でございますけれども、11月19日(日)、10時から南部のほうですね、門沢橋小学校の体育館で実施を予定しております。どうぞご参加をお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして第2回海老名市総合教育会議を閉会いたします。長時間にわたりましてありがとうございました。